

へき地医療「実習先の受け皿」目指す

I&H、新潟薬科大でまず実践

2023/10/17 04:50



山北地区を訪れた新潟薬科大3年生（左2人）たち（I&H提供）

阪神調剤グループを運営するI&H（兵庫県芦屋市）が、薬学部と連携した、へき地医療を学ぶ実習先の受け皿作りに乗り出している。9月には新潟薬科大（新潟市）の3年生向けの実習の一環として、県北端の地域でグループ薬局を軸にした在宅や病院実習を実現した。今後も大学の要請に応じて、離島やへき地にあるグループ薬局を中心に学生を受け入れていく方針だ。

●多職種連携や在宅を学ぶ

新潟薬科大の実習「地域医療の実践」には、3年生4人が1泊2日で参加。山形県との県境にある新潟県村上市山北地区（人口4875人、高齢化率52.5%＝4月1日現在）で、唯一の総合病院である山北徳洲会病院の敷地内に開局している「エール薬局さんぽく店」で実習した。医師や看護師ら多職種連携の現場を見学したほか、薬局薬剤師の在宅訪問に同行し、山間部の地域医療の現状に触れたという。

エール薬局さんぽく店は2022年3月に山北徳洲会病院の敷地内薬局としてオープン。現在、山北地区で唯一の薬局となっている。薬局開設をきっかけに院外処方が始まったほか、近隣のドラッグストアまで10キロ以上離れている土地柄から、OTC医薬品や衛生用品も販売している。同実習では、病院との関係性を生かし、薬局だけでなく病院内の実習にもつなげた。

●地域医療に貢献する薬剤師、薬学生に伝える

新潟薬科大が掲げた実習の目的の一つは、地域医療を意識した将来のキャリア形成。離島やへき地への薬局開設に力を入れる同社の方針と一致したため、今回初めて同社が仲介する形で、すでに薬局を開設していた山北地区での実習が実現したという。

同社は、同様の取り組みを他の地域の薬学部にも広げていく構えだ。都市部と地方での薬剤師の偏在が問題視される中、今回の仲介役を担った調剤薬局事業支援本部人材採用部の礒野守氏は「医療過疎の地域で活躍する薬局や薬剤師の役割を薬学生が知れば、自身の将来像の一つとしてイメージできるようになる」と話している。（折口 慎一郎）